

RPPC メールマガジン 第 886 号

リサイクルポート推進協議会（令和 3 年 8 月 25 日）

■先週・今週の事務局からのお知らせ

「令和 3 年度 汚染土壌事業化部会 WG 長会議」（部会長、WG 長のみ）

日 時：9 月 1 日（水）14:00～

開催方法：オンライン（Zoom）

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1.衣浦港振興会、金属スクラップ輸出強化へ勉強会。関係機関に要望

衣浦港振興会（鈴木並生会長、碧南商工会議所会頭）は 7 月 29 日、碧南商工会議所で「衣浦港機能強化に向けた地域勉強会—経済基盤を支える衣浦港の発展に向けて」と題する地域勉強会を開催した。金属スクラップ輸出強化に向けた港湾整備の重要性について意見交換した。半田商工会議所、J E R A 碧南火力発電所、半田港運、愛知海運三河カンパニー、日本鉄リサイクル工業会など 30 名が参加した。

会の冒頭、鈴木会長は「金属スクラップは衣浦港において今後期待できる輸出品目。衣浦港で金属スクラップの輸出を開始したのは平成 4 年で、現在まで約 30 年間取り扱い実績を伸ばしてきた。ポートアイランドの具体利用を考える時期にも差し掛かっている」と挨拶。

会議では衣浦港振興会が推進する港湾政策などを共有した後、プレゼンターとして日鉄工業会の伊藤弘之会長が、国内の鉄スクラップの需給状況をはじめ、切削・打ち抜きスクラップの輸出で国内第 1 位となっている衣浦港のポテンシャルやベトナムやバングラディッシュなど鉄スクラップ需要が見込める海外の需要動向などについて説明。その中で、衣浦港の大型船による輸出を可能とする港湾整備を行うことで大量輸出が実現し、鉄スクラップ輸出の拠点港となる可能性を秘めていることなどを紹介した。

そして「そのためには大型船（2 万～3 万 t 船型）が接岸可能な延長 2 0 0～2 4 0 m 以上、水深 1 0～1 2 m 以上の岸壁、集積ヤード 1 万～2 万平方 m を有する広い背後地の整備や、荷役能力、機動性に優れた可動式大型クレーンの設置が必要」と訴えた。

衣浦港振興会では、今回の意見交換を基に提言書をまとめ、衣浦港の整備に関し国土交通省に要望する。

2.九州地整、馬毛島基地係留施設でE C I 技術協力

防衛省は鹿児島県西之表市馬毛島に計画しているF C L P（陸上空母着陸訓練）基地に関連して、島内に整備する係留施設などの設計・建設を九州地方整備局に支出委任する。九州地整ではこの意向を踏まえ8月12日付で、E C I方式による技術協力業務の手続きを始めた。E C Iは優先交渉権者として選定された者と技術協力業務を契約し、その後価格等の交渉を経て施工契約を締結する。

今回業務での技術協力対象施設は、一般栈橋、燃料栈橋・ドルフィン、防波堤、接続施設、消波堤防、係留施設、附帯施設（港内消波工）。技術協力業務の履行期間は令和4年7月末となっている。

一方、防衛施設庁は8月6日、島内に整備する係留施設などの配置案や、海上ボーリング調査の進捗状況を公表している。

施設配置案によれば、北東部に施設建設工事で使う資機材搬入用の仮設栈橋3基を計画。また係留施設は、外郭施設の防波堤や栈橋、消波堤防などで構成している。

3.高松港・坂出港第2回長期構想検討会開催、素案示す

香川県と坂出市は8月5日、第2回高松港・坂出港長期構想検討委員会を開催した。県内で隣接する重要港湾の管理者が連携し、両港の長所や特色を生かすと共に、不足している機能を補完しあうことで低コストかつ効果的に港湾機能を整える。今回は長期構想素案について審議。年内に予定する第3回委員会で構想案をまとめると共に、令和4年度に港湾計画改訂に向けた議論を始める方針。

今回の検討会では両港が目指すべき方向性を、長期構想（素案）として示した。

高松港では物流・産業のテーマについて、朝日地区のコンテナターミナル機能の強化と国際物流ターミナル関連係留施設の拡充挙げている。

また大型クルーズ船の受入に向け、現状で5万t級となっている玉藻地区クルーズバース（水深10m）を延長し、11万t級に対応したふ頭へと拡充する。このほか浚渫土砂の受入れとして朝日地区、弦打地区（既定計画）に海面処分場を整備していく。

一方、坂出港における物流・産業面の機能拡充では、新たに総社地区に大水深岸壁を構想している。坂出港においても港湾機能の維持のための浚渫土砂の処分場が不足していることから、総社地区の前面を海面処分場として整備。同埋立地を活用した大水深岸壁を位置付ける予定。隣接する林田地区（既設の水深12m岸壁）などと連携し、

坂出港の物流機能の中枢を形成していく方針。

4.福山港、製鋼スラグで J F E 土砂処分場嵩上げ

中国地方整備局広島港湾・空港整備事務所は、福山港盛土工事（その2）として、浚渫土砂等の処処分先となる J F E 土砂処分場の土工を施工する。

福山港盛土工事は、岡山県笠岡市鋼管町の J F E 敷地内の浚渫土砂処分場の投入容量を増やすための工事。同処分場は周囲延長約 3・5 k m。過年度に高さ 10・5 m の盛土囲いになっているが、これを今回工事で 1・5 m 嵩上げ、浚渫土砂の受入容量を引き上げる。

嵩上げ工事は昨年度開始しており、今回のその2工事では約5万立方mの製鋼スラグを使い残り4分の1区画を嵩上げする。全延長完了は来年度以降の予定。完成すると盛土による土手は上面が約5m、底面約30mの囲いが出来る。

この浚渫土砂処分場には、福山港のふ頭再編事業のほか、水島港で促進されている「玉島東航路」、「水島玉島航路」の航路増深整備で生じる浚渫土の受け入れ先にもなる。

※港湾空港タイムス 8月23日号から編集

※新たに導入した PC とメーラーの環境では、添付ファイルが「***.dat」となったり、不要な添付ファイルが付く場合があります。受信ファイルに不具合がある場合は、気兼ねなくその旨ご指摘ください

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////